

○保育園におけるBCP（事業継続計画）のポイント

保育園におけるBCPの第1の目的は、「人命の安全確保」であり、第2の目的は最重要業務である「保育の継続・早期再開」である。保育園BCPにおいては、この2つの目的に向かっていかに被害を低減し、いかに復旧時間を短縮するかがポイントである。

○緊急時対応

保育園の早期再開に向けて行うべき緊急時対応

- ・災害発生直後の初動フェーズ（局面）
- ・保育再開に向けた復旧フェーズ（局面）

*初動フェーズ

①保育時間中に災害が発生した場合

保育時間中に大規模災害が発生した際の保育園の最重要任務は、園児の身の安全を確保することであり、いち早く園児を保護者に引き渡すことではない。これを踏まえると、保護者が園児を迎えに来るまで園児を安全に預かることが、保育園の基本対応方針となる。基本対応方針に沿った具体的な職員の対応は下記の通りである。

< 災害発生時の行動 >

*地震発生時

地震が発生した際は、出来るだけ物が落ちてこない安全な場所へ園児を誘導する。

そしてその場に座り込んで頭部を守る防御態勢をとるよう指示し、揺れが収まるまで耐える。この時、園児がパニックにならないよう、職員は普段と変わらない落ち着いた言動を心掛ける必要がある。また、揺れている最中の行動は危険を伴うため、揺れが収まってから行動を開始することが肝要である。

*余震発生時

余震が発生した際は、園児を落ち着かせ、安全な場所に迅速に誘導する。

地震発生時同様に、職員は普段と変わらない落ち着いた言動を心掛ける。

< 避難誘導等の行動開始 >

揺れが収まり次第、職員は行動を開始する。これ以降の行動には、園児の命が委ねられているため、迅速かつ効率的な組織行動が求められる。

→ ふくた保育園 自衛消防隊組織表を参照。（防災に関して）

→ 指揮者不在の時は、その場にいる人（複数いる場合は①役職者→②年次の順で、その上位者にあたる者）が指揮を執る。

< 避難場所へ集合後 >

移動を行った際は、集合の都度園児の人員点呼・確認を行う。トイレや物陰で動けなくなってしまう園児もいるため、確認漏れのないよう気を付ける。

< 負傷者の手当て >

避難場所に待機した後に、軽傷者に対して応急手当を実施する。重傷者に対しては医療機関への搬送が必要となる。但し、大規模地震発生時は平常時と同様の救急車の駆け付けが困難なことが考えられるため、予め重傷者の搬送先を検討・確認しておく。(災害計画参照)

< 保護者への緊急連絡 >

園児を避難場所に待機させた後に、保護者への緊急連絡を実施する。

→ 発生直後は、固定電話・携帯電話共に、ほとんど通話不能な状況になり、メールの送受信にもかなりの遅延が生じると考えられる。災害用伝言ダイヤルを活用し避難状況を知らせていく。(ホームページ・園メールでも保育園からの連絡事項を掲載していく)

< 待機時間 >

保護者のお迎えを待つ間は、絵本や紙芝居を見せたりおやつを食べさせたりするなど、園児が不安がらないような配慮を行う。

< 園児の引き渡し >

災害はいつ発生するか分からず、保護者本人が園児を迎えに来られるとは限らない。災害時における園児引き渡しトラブルを防ぐためにも、予め園児引き渡しカードを確認しておく。

< 翌日以降のスケジュール案内 >

園児引き渡しの際には、保護者へ翌日以降の暫定スケジュールや連絡方法などについて案内をする必要がある。園児を安全な場所へ避難誘導し終えたら、園舎等の被害概要を踏まえて保護者への案内内容をまとめ、職員間で情報を共有しておく。

②保育時間外に災害が発生した場合

保育時間外に災害が発生した場合の主な実施事項は、(1)職員の安否確認、(2)保育園の園舎や設備の被害状況の確認、(3)園児の安否確認の3つである。

- (1) ➔ 即座に連絡が出来る様、園メールの登録の徹底。
- (2) ➔ 園長・主任が園の被害状況を確認し。(理事長への報告も行う)
但し、広域停電時における夜間移動は危険が伴う為、夜明けを待って行動すること。
- (3) ➔ 実施のタイミングを予め検討しておくことが必要。

*復旧フェーズ

園児の保護者への引き渡しを終えたら、保育園の被害状況を確認し、復旧活動を開始することが求められる。被災した場合は、必要な支援が得られるよう、各団体・組織窓口にて手続きを行う。(木更津市役所・厚生労働省・千葉県庁他)

災害時にどう動くか？

ケース別職員行動マニュアル → 必要なのは、冷静な「判断力」と「行動力」

＜ 災害時の行動の基本 ＞

～どんな時にも、どんな場所でも～

- 1 子どもを集める（安全な場所に移動）
- 2 常に人数を確認（不明者が出ないように注意）
- 3 スキンシップや声掛け（心を落ち着かせる）

※まだ歩けない子どもへの対応

すぐには逃げられないということを前提に

普段いる場所を安全にしておくことが肝心

要 因	災 害 状 況	対 処（職員のとるべき行動）
その① 保育室など室内で地震に遭ったら	<ul style="list-style-type: none"> ○物の移動、転倒、落下 ○ガラスや照明器具の破損 ○閉じ込められる 	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢を低くし頭を守る ○室内の安全な場所に移動 ○午睡中の子どもは起こす ○火を消す ○出入口を確保する ○トイレにいたら外に出す ○屋外に避難する
その② 園庭など屋外で地震に遭ったら	<ul style="list-style-type: none"> ○建物などの崩壊、物が落下 ○ブロック塀や遊具の転倒 ○地割れ、液状化 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども達を分散させない ○遊具から降ろす ○大人が囲んで安心させる ○建物、ブロック塀、門柱などから離れる ○地割れには近寄らない ○保護者も一緒に（登降園時） ○プールにいても慌てない（夏季）
その③ 散歩中に地震に遭ったら	<ul style="list-style-type: none"> ○建物の崩壊、物が落下 ○車やバイクがコントロール不能に ○地割れ、液状化 	<ul style="list-style-type: none"> ○落下物を避ける ○お散歩カー（避難車）はしっかりとつかまえておく ○安全な場所を見極め、避難する ○ブロック塀や自動販売機から離れる ○車やバイク等に注意する ○園に戻るのは、揺れが収まってから ○地割れには近寄らない

要 因	災 害 状 況	対 処 (職員のとるべき行動)
<p>その④ 園外保育の日に地震に遭ったら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○建物の崩壊、物が落下 ○混乱による迷子 ○車両（園バス等）の運行不可 ○園との連絡が取れない ○信号機の停止 	<ul style="list-style-type: none"> ○建物や落下物には近付かない ○点呼の回数を増やし、常に園児の人数把握を徹底する ○姉妹園と連絡を取り、代わりのバスを手配する ○無理に動かず、周辺での安全確保に努める。また、姉妹園への連絡を試みる ○無理に運行はせず、路肩に止めて安全確保に努める
<p>その⑤ 地震の後に火事が発生したら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○煙を吸い込んで意識を失う ○火傷をする ○爆風で吹き飛ばされる 	<ul style="list-style-type: none"> ○初期消火よりも避難経路の確保を優先する ○園周辺と消防署への通報を急ぐ ○防災頭巾や濡れタオルで頭や肌を守る ○子ども達を屋外へ避難させる ○煙を吸い込まないように注意する ○逃げるときはドアや窓を閉める ○一度避難したら戻らない


要 因	災 害 状 況	対 処 (職員のとるべき行動)
その⑥ 台風に遭遇した場合	○物の転倒・落下・飛散	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども達を室内の安全な場所に移動させる (窓ガラスから離れた場所) ○子ども達を安全な場所に移動させる ○障害物を避ける ○前兆に気が付いたら素早く避難する ○散歩中の場合は、安全な場所を見極めて避難する ○災害用伝言ダイヤル及び園メールを活用し、状況を保護者に伝え、場合によっては早めのお迎えを依頼する ○園周辺を点検し、飛散しそうな物があれば室内や倉庫に収納する ○自主的な雪かき ○出入口の確保 ○遠方から出勤する職員への帰宅困難者防止への配慮
その⑦ 竜巻に遭遇した場合	○倒木 ○道路の冠水 ○停電	
その⑧ ゲリラ豪雨に遭遇したら	○道路の冠水 ○地すべり	
その⑨ 大雪に遭遇したら	○転倒 ○停電	

地震発生直後の対応について → 確認したら即行動 地震の揺れが完全に収まったら、子ども達や周りの状況を出来るだけ早く確認し、職員同士で協力し合って安全確保に努めること	1, 子ども達の様子を確認	○異変はないか？ (怪我など) ○不明者はいないか？
	2, 周りの状況を確認	○火事の危険は？ ○地域の被害は？ ○園の被害状況は？
	3, 次の行動への準備	○園外への避難 ○屋外への避難 ○園内待機
	4, 連絡手段の確保	○保護者との連絡 ○園外にいる保育士との連絡

もしも倒壊物の下敷きになったら？	子どもが下敷きになったら	<ul style="list-style-type: none"> ○周りの保育士に声を掛け、一緒に救助する ○子どもには励ましの言葉を掛け続ける ○救助を呼ぶ
	自分が下敷きになったら	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の状況を確認する ○呼吸をしやすいように顔の周りに空間を作る ○笛を吹く、物をたたくなどして、周りに知らせる ○体をむやみに動かさない ○救助を信じて、諦めずに待つ

< 復旧・復興に向けてのフェーズ >

保育を物理的（時間・場所他）視点と質的（内容等）視点で捉え、復旧・復興までのロードマップとした。



経過段階 フェーズ	第1段階	第2段階	第3段階
日常保育再構築			<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な最終点検 ○園外保育再開に向けての準備 従来地の状況確認と代替え地の選定 ○行事・イベントに関する再開計画と準備
フル開所に向けての工程		<ul style="list-style-type: none"> ○フル開所申請へ向けての課題の整理と克服 ○給食室のフル開所に向けての準備 ○保育材料等のソフトウェアの調達確認 ○遊具等ハードウェアの細部点検 ○職員配置の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ○園児の現状把握に向けての面接及び指導 ○園児の日常生活回帰を目的とした生活リズムの再生と生活習慣再構築
開所までの工程	<ul style="list-style-type: none"> ○行政への再開申請と許可 ○登園不能児に向けてのフォローアップ <ul style="list-style-type: none"> ・避難所、仮設住宅への出前保育 ・災害ストレスの軽減対策 保健・衛生指導 ・調達可能食材での栄養指導 災害下における子育て支援 		<ul style="list-style-type: none"> ○園敷地、建物に関する安全性の確保 ○園児、職員の安否の確認